

第62号  
令和7年春号

# 琥珀石 - みとろ -



## 医療センターからの お知らせ

内科、循環器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科及び眼科（火曜日のみ）の受診には、医療機関からの紹介状が必要です。腎臓内科、脳神経内科及び皮膚科（火曜日のみ）の受診には、地域医療連携室を介した紹介予約制です。

救急の場合は、この限りではありません。直接、救急外来に電話で相談してください。

## —基本理念—

私たちは、すべての患者さんの安全と権利を守り、良質な医療環境のもとに、安心して適切な医療が受けられる病院をめざします。

## —基本方針—

1. 患者さんと職員の安全確保
2. わかりやすい説明の工夫と守秘義務の順守
3. 医療の質の向上、チーム医療の充実、全人的医療人の育成
4. 地域医療の連携強化
5. 自治体病院としての公共性を追及

## 診療科紹介

### 脳神経内科

脳神経内科は、脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気をみる内科の専門分野です。症状としては「しびれやめまい、うまく力はいらない、歩きにくい、ひきつけ、むせる、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、ものわすれ、意識障害」などたくさんあります。具体的な病気としては、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症といった神経難病、脳卒中、てんかん、認知症、多発性硬化症などの脱髄

性疾患、髄膜炎・脳炎といった中枢神経の感染症、ギランバレー症候群等の末梢神経疾患、筋炎などを診療しています。

脳神経内科の最大の特徴は、丹念な問診と神経学的診察を行い、病気を診断することです。診察に加えて、MRI・CT・SPECTなどの画像検査や神経伝導検査・針筋電図・脳波などの神経生理学的検査が必要な場合となる場合もありますが、全て当院にて行うことが可能です。認知症外来を含め新患外来では、診療を丁寧に行う必要があるため、地域医療連携室を通じた完全予約制にさせていただいております。

脳梗塞をはじめとした緊急性の高い疾患に関しては、脳神経外科の医師と協力し、24時間365日体制で受け入れています。発症4.5時間以内の脳梗塞の患者さんに対して、薬による脳血栓溶解療法（rt-PA静注療法）も行っています。令和5年からは脳神経外科による急性期脳梗塞に対する血管内治療も開始され、治療の選択肢が広がっています。ただし、急性期脳血管障害に対する先進治療は脳出血など合併症の重篤な副作用もあるため、その適応は専門の医師により慎重に判断する必要があり、発症早期の全ての患者さんに行える治療ではありません。しかし、治療にとっての早期発見・早期治療は大変重要です。「呂律がまわりづらい、言葉が出てこない、片側の手足の力が入らない」などの症状が急にみられた場合はすぐに救急外来へ相談してください。

当科では外来診療から救急対応まで幅広く、地域に根ざした診療を目指しております。当科へ受診をご希望される場合は、一度かかりつけ医の先生とご相談ください。



## 災害実働訓練

当院は、地域災害拠点病院に指定されており、災害実働訓練は、災害時に速やかに対応できるよう訓練するとともに、職員の防災意識の高揚を図るために毎年実施しています。

今年は、令和6年11月23日に訓練を実施し、職員約90名が参加しました。さらに傷病者役として、なぎ看護学校3年生、訓練運営補助として那智勝浦町立温泉病院、くしもと町立病院から、計約500名の方々にご協力を頂きました。

今回の訓練では、能登半島地震を教訓に、半島災害ではなかなか早期に支援を受けられないことを想定しながら実施しました。

当日は、新宮市で震度6強の地震発生を想定し、多数の傷病者に対応するため災害対策本部を設置し、治療の優先順位を決定するトリアージエリアや、診療エリアを設営しました。実際に仮想患者で

対応訓練を行い、診察から検査、処置、入院など一連の流れを確認し、訓練終了後に各エリアで反省会を行いました。

訓練で得た新たな課題を踏まえて災害対策を進めるとともに、今後も災害に強い安心安全な病院作りに努めてまいります。



# 地域の新型コロナウイルス感染症の流行期と対策について

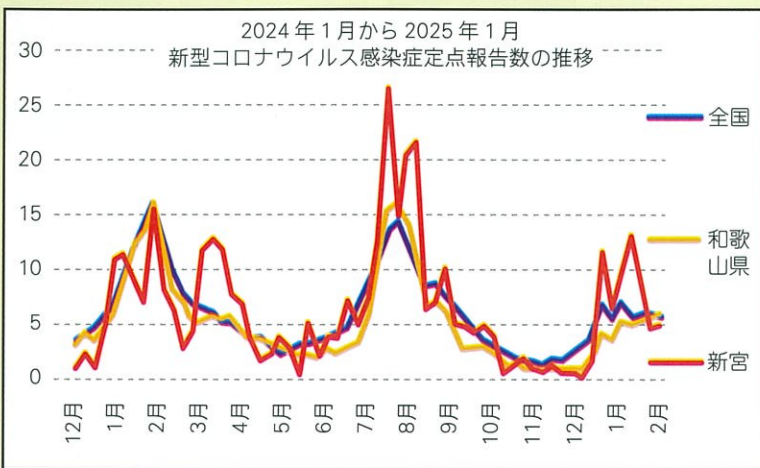
新型コロナウイルス感染症は、2019年末に中国で発生し、瞬く間に世界中に広がりました。感染経路は、主に飛沫感染（せきやくしゃみによるしぶき）や接触感染（ウイルスで汚染された手や物）であり、特に密閉・密集・密接の「三密」環境での感染リスクが高いとされています。



世界中で、ワクチン接種の推進、マスクの着用、手洗いの徹底、ソーシャルディスタンスの確保など、さまざまな対策を講じてきました。日本でも緊急事態宣言の発令や行動制限が実施され、リモートワークやオンライン授業が普及しました。こうした対策により感染拡大は抑制されましたが、社会や経済への影響は非常に大きいものでした。

2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザと同じ感染症法5類へと移行しました。しかし、その後もウイルスの変異株が次々と出現しており、引き続き注意が必要で、個々の基本的な感染対策が依然として重要です。今後も正確な情報をもとに冷静に行動し、社会全体で協力しながら感染症と向き合うことが求められます。

病院には様々な病気の方が通院、入院されています。多くの患者さんと医療者を感染症から守るためにも、院内ではマスク着用を引き続きよろしくお願い致します。



左のグラフは、2024年の新型コロナウイルス感染症者の定点報告になります。報告数をみてみると、1月・2月の冬の時期と、8月・9月の夏の時期に感染者数が増えていることが分かります。ここ数年のデータからも、冬と夏に新型コロナウイルス感染症が流行しており、この時期の感染対策は特に重要となります。また、赤線が新宮市の報告数となり、全国と比較しても感染者数が多いことが分かります。

## 職場ウォッチング 内視鏡室・放射線科

私たちは看護師7名、補助員1名で内視鏡室と放射線科を担当しています。

内視鏡室業務は、胃カメラや大腸カメラなどを使用しての検査や治療の介助を行っています。

2023年度の検査件数は上部消化管内視鏡 1290件、下部消化管内視鏡 822件、超音波内視鏡 118件、胆膵内視鏡 187件でした。内視鏡

による治療としては、胃・大腸のポリープや早期癌の治療、胆管や膵臓の治療（結石の摘出・ドレナージ）、粘膜切除術（EMR）、粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。また、進行癌による消化管や胆管の狭窄に対しては、ステントを挿入して通過障害を改善させます。2023年度はEMR200件、ESD26件、消化管ステント42件、胆管ステント73件、胆石摘出64件を行いました。

放射線科での業務は、心臓や頭の血管のカテーテル検査・治療の介助、CT・MRI検査の介助、放射線治療の診察介助、透析患者の拡張術や中心静脈カテーテル挿入の介助、尿管ステント挿入・交換の介助など多岐にわたります。循環器内科のカテーテル検査・治療件数は2024年4月から12月までで600件を超え、毎年増加しています。さらに、2023年度から脳神経外科による頸動脈狭窄に対するステント留置と脳梗塞患者への血栓回収術が新たに始まりました。

私たちは、緊急の検査・治療に関しても24時間対応しています。これからも日々進化する医療に対応できるよう自己研鑽に努め、スタッフ全員一丸となり、検査・治療が安全に行えるように努めていきたいと思ひます。



- 令和6年11月20日(水) ハイブリッド方式 Cardiology Update Forum~これからの循環器疾患の他職種連携~  
講師:新宮市立医療センター 循環器内科医師 高木 拓也先生 リハビリテーション科 理学療法士 須崎 由香先生  
医師からは心不全患者さんのカテーテル治療と薬物療法について、理学療法士からは、心不全のリハビリテーションについて、わかりやすく説明されました。
- 令和6年12月2日(月)~12月25日(水) オンデマンド配信「骨粗鬆症について」 新宮市立医療センター OLS委員会  
看護師、レントゲン技師、栄養士、薬剤師より、骨粗しょう症の症状・検査・栄養・薬剤について説明され、院内外の多くの方に視聴していただきました。
- 令和7年1月18日(土)第2回 看看介連携の会「退院支援に係るカンファレンスにについて」 コロナ・インフルエンザ蔓延のため中止
- 令和7年2月13日(木) Webセミナー「パーキンソン病との上手な付き合い方」  
講師:和歌山県立医科大学脳神経内科講座 助教 阪田 麻友由美先生  
症状や治療についてわかりやすく説明され、認知症との違いが理解できました。また、食事介助などの対応に役立てられるとの感想が聞けました。
- 令和7年2月28日(金) ハイブリッド方式「能登半島二重被災後の現状」  
講師:独立行政法人国立病院機構 災害医療センターDMAT事務局 是枝 大輔先生  
院内外から85名が参加されました。能登半島災害での貴重な体験を聞き、改めて、半島防災について学ぶことが出来ました。



### ◆◆◆新任医師ご紹介◆◆◆

内科 部長  
みなが たかまさ  
三長 敬昌



この度内科に赴任して参りました三長です。どうぞよろしく申し上げます。

内科・消化器内科 部長  
きのした じゅん  
木下 淳



地域の皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしく申し上げます。

外科 部長  
ふじた よういち  
藤田 洋一



はじめまして。鼠径ヘルニア(脱腸)、胆嚢結石症、内痔核などでお困りのことがあれば、受診をお願いします。

産婦人科 部長  
さいとうりょうすけ  
齋藤 良介



安全・安心、そして幸せな周産期医療の実現のため、精進して参ります。よろしく申し上げます。

内科 医長  
かわむら こうた  
川村 晃大



皆様の健康維持の一助となれるように精進してまいります。よろしく申し上げます。

内科 医長  
なかたに じゅん  
中谷 潤



新宮医療圏の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしく申し上げます。

内科 医員  
ぬかた ようへい  
額田 洋平



内科として勤務致します。至らない点も多々あると思いますが、何卒よろしく申し上げます。

内科 医員  
いずみ ゆうた  
泉 裕太



内視鏡を中心に内科診療を担当します。患者さんに寄り添った丁寧な医療を心がけていきます。

外科 医員  
いべ まさき  
井邊 公章



消化器外科医としてはまだまだ駆け出しですが、市民の皆様のご信頼を勝ち得るよう誠心誠意がんばります。

小児科 医員  
わた たつり  
和田 達典



新宮市の小児医療に貢献できるように精一杯頑張ります。よろしく申し上げます。

産婦人科 医長  
まつら みき  
松浦 美紀



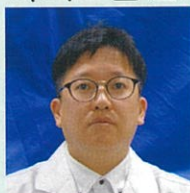
新宮周辺の周産期医療に貢献できるように精一杯頑張ります。よろしく申し上げます。

産婦人科 医員  
おがわ ももこ  
小川 百子



新宮市の医療に貢献できるよう尽力して参りますのでどうぞよろしく申し上げます。

耳鼻咽喉科 医長  
きのした てつや  
木下 哲也



約20年ぶりの耳鼻咽喉科常勤医とのことで緊張しています。趣味は硬式テニスです。

耳鼻咽喉科 医長  
みやもと まい  
宮本 真衣



耳鼻喉に関するご心配事は、是非お気軽にご相談ください。よろしく申し上げます。

循環器内科 医員  
きたさき ゆうたか  
北崎 裕敬



新宮地域の循環器を中心とした内科診療に貢献できるよう頑張っていきます。

脳神経外科 医員  
しみず としき  
清水 俊樹



地域の脳外科診療に貢献できるよう尽力いたします。よろしく申し上げます。

整形外科 医長  
むらかみ きみひで  
村上 公英



新宮地域での地域医療に整形外科・脊椎外科医として貢献できるよう尽力いたします。

脳神経内科 医員  
あおき ようへい  
青木 陽平



地域の神経患者さん一人ひとりに寄り添った医療を目指します。よろしく申し上げます。

腎臓内科 医員  
かじかわみちは  
鍛治川 順葉



新宮市の皆さまの健康を守るお手伝いが出来ればと思います。宜しくお願い致します。

### ◆退任医師の報告◆

氏名	診療科・役職	退任日
小野田幸治	心臓血管外科・相談役	令和7年3月31日
西野雅之	内科 部長	令和7年3月31日
田端康人	内科・消化器内科部長	令和7年3月31日
渡邊高士	外科 部長	令和7年3月31日
駒崎裕美	産婦人科 部長	令和7年3月31日
中 暁洋	内科 医長	令和7年3月31日
井上 慎吾	内科 医長	令和7年3月31日
小畑 智彦	内科 医員	令和7年3月31日
師玉 拓季	内科 医員	令和7年3月31日
竹本 典生	外科 医長	令和7年3月31日
酒見 大輝	小児科 医員	令和7年3月31日
東田 太郎	産婦人科 医長	令和7年3月31日
福島 蒼太	産婦人科 医長	令和7年3月31日
忽滑谷 暁紀	産婦人科 医員	令和7年2月28日
小松 慶也	循環器内科 医員	令和7年3月31日
大谷 侃	脳神経外科 医員	令和7年3月31日
村田 鎮優	整形外科 医長	令和7年3月31日
和田 嘉允	脳神経内科 医員	令和7年3月31日
石本 杜樹	腎臓内科 医員	令和7年3月31日

### 編集後記

「プレスト・アウェアネス」という言葉を聞いたことがありますか?

プレストは「乳房」、アウェアネスは「意識」で「乳房を意識した生活習慣」という意味です。昔から自己検診のことは言われていますが、最近は何でもヨコ文字が流行っているのでしょうか。

今や女性がかかるがんの中で最も多いのが乳がんです。日頃から自分の乳房をチェックし、状態を知ることこそが乳がんの早期発見につながります!

実際乳がん気づきかけは、検診よりセルフチェックのほうが多かったようです。

「習慣はその人の人生を変える。」とマザーテレサさんも言われています。

今日があなたの人生を変えるスタートです。プレスト・アウェアネス始めてみましょう。(yaa)